

2002 年度

杏林大学 社会科学部 総合政策学部 菅原秀幸ゼミナール

ゼミナール活動レポート



2002年10月19日 ゼミ合宿にて、4年生の卒論発表

www.SugawaraOnline.com

これまでのゼミを振りかえって

菅原ゼミナール四年 浅見真也

(1) ゼミで学んだ事

私は菅原ゼミナールで多くの経験を学ぶことができたと感じます。それを私が入ゼミするときからの流れで話したいと思います。

まず、始めに入ゼミ試験のことが思い浮かびます。麻田ゼミナールの入ゼミ試験に落ちてしまい、菅原ゼミに落ちたらマジやばいと思っていました。試験当日、菅原先生から言われた試験内容は、プレゼンテーション(以下プレゼン)をしることだった。てっきり面接だと思っていた私は、どうしたら良いかわからずかなり焦っていたことが今でも頭に浮かびます。そして私のプレゼンも先生、先輩方から見れば、何言っているのかわからなかったと思います。ただ、そのやる気だけは先生、先輩方に伝わった？おかげで無事合格することができました。(あのとき、プレゼンをしたことは一生忘れられない思い出です。)

そしてすぐに相模湖のクラブハウスで合宿を行いました。そのとき、三年生、四年生が行ったプレゼン(パワーポイント)に私はその出来栄えにビックリしました。「すげえー」って心のなかで思っていました。また先輩方の積極性にもビックリしました。先輩方は自ら進んでやっているのを見て、自分はこの先輩方のようにになれるのだから不安いっぱいでした。ただ、この合宿のおかげで、ゼミ生と早く仲良くなることができ、いい合宿だったことを覚えています。

その後、私はパソコンを持ってなかったので、急いで買いに行きました。使い方も良くわからず、なんとか自力でインターネットにつなぐことができました。ただ、このゼミに入らなければ、パソコンとは無縁の人生を歩んでいたかもしれません(ホント感謝です)。

二年生の春、初めて海外(タイ・カンボジア)に行くことになりました。正直、海外に対して不安をもっており行く前はあまり乗り気ではなかった。そんなとき先生が言ってくれた言葉は「何でも体験してみないとわからない」ということだった。そしてしつこく海外合宿を行った。ただ、海外で一日一日を過ごしていくたびに良さがわかってきた。そして、そのときの海外合宿は「最高の財産」になったと思っている。海外で過ごした毎日はとても新鮮であり日本にいる一日とはわけが違った。カンボジアでは大学の学生と交流を持つことができ、こういうことは普通のパックツアーでは絶対できないことなので貴重な経験をできたと思っています。

三年生になってからは自己能力のアップに努めた。そしてプレゼムのアシスタントも良い経験です。教えることは学ぶことと先生は良く言っていますが、そういうことも体験して初めてわかることだと思いました。(実際、私は教えることが苦手なので、かなり戸惑っていました。)

三年生の後期になると後輩が入り、沖縄へ合宿がありました。そのときは名桜大学、琉球大学と交流を持つことができたことは良い経験となった。こういうことも他のゼミではできないことであり、またインターネットのすごさを改めて感じました。また沖縄の歴史を知ることができた。(11月だったのに、すげえ暑かったのにはビックリでした。)

そして三月、二期生(井上さん達)が卒業していった。二期生は一人一人個性的で、存在感がありとても良い先輩であった。ひそかに憧れている部分もありとても寂しかったことを思い出します。

四年になってからはベトナムへの合宿が思い出です。このときは、四年生と旅行係りという立場でありみんなを引っ張っていくという責任があった。実際、アポは先生にほとんどやってもらったので、自分の力の無さを痛感しました。その分、旅行中は前に立って頑張りました。旅行の最後になると「ごろうさま」って何人かに言われたときは、頑張ってたよかったです。またタイでは一人で行動したことは、始めは不安の方が大きかったですが、一人でバスのチケット取ったり、ゲストハウスに泊まったり一回り大きくなったような気がします。

そして最後は卒業論文です。一言で言えば大変でした。ホームページ上に載るものだから、変なものできないというプレ

ッシャー がかなりありました。でも 大変だっただけにやり遂げたときは本当にうれしかったです。

この二年半とい期間で得た経験は私にとってとても大きな財産になったと思います。

(2) 反省点

すべて後手に回ってしまったこと。行動が遅かったこと。

(海外合宿での企業や大学へのアポなど)

先輩方から教えてもらったことを後輩に伝えられなかったこと。

(旅行係りとしてその仕事をうまく伝えられなかった)

- ・ パワーポイントでわからなかったことを次回までやってくるというしながら ほとんど何もやらなかったこと。
- ・ 田崎さんが中心としてやっていた英語に積極的に参加すればよかった。
- ・ ゼミ全体として遅刻、休みが多すぎる(本当に困る)。
- ・ 個人として卒業論文で各章を期限までに提出できなかった。

(3) 今後の改善点

これはゼミ全体に関してのことです。

・英語を積極的に取り入れていくべき

(例えば、サブゼミとして2週間に一度程度、英語の課題をやる)

相模湖のクラブハウスなどを利用して集中的な合宿をするべき

卒業論文をもっと早い時期から取り組むべき。

(4) 卒業してからの抱負

私はとりあえず、一年間フリーターでいようと考えています。そして自分の歩む道を決めようと思っています。その中でいくつか候補があります。例えば海外で働くワーキングホリデーをすることで海外へ行こうとも考えていました。そして現在、自分の中で考えているのは、先生には少し話しかかと思いますが、音楽の道へ行こうかと考えています。かなり無謀なことを言っていると思われるかもしれませんが、しかし、初めて自分の人生に対してやってみたいとおもったので、それをしてみたいです。人生一回きりなので、悔いの残らぬよう生きたいと思います。

(5) その他

菅原先生へ

まず二年半、ご指導ありがとうございました。私がかここまで成長できたのは、本当に先生のおかげだと思っています(先生から見ればまだまだでしょうが...)。私がゼミに入った当初は、最後までできるかわからないような気持ちでした。そんなときに、先生やゼミの仲間がいたからこそ、ここまで頑張ってきたと思います。

先生は米国、ワシントンに行ってしまうんですね。先生だってまだまだ成長段階と言う通り 私なんてまだ歩き始めた程度でしかありません。自分に対して貪欲になっていきたいと思います。米国でもガンガン頑張ってください。先生なら戦争があっても生きて帰ってくると思います(笑)。まあ体調だけには十分注意して一年間やってきてください。そして帰ってきたら みんなでご飯でも食べながらお話ししましょう

最後に、本当に今までありがとうございました。

菅原ゼミでの一年を振り返って

4年ゼミ長 北島 明子

(1) ゼミで学んだ事

今年のゼミは卒業研究論文を書くということが、最大の目標であり課題であった。その為、週一回のゼミでの活動より個人での卒業論文執筆活動が主だった。

卒業研究論文を執筆した事で、研究をするという事は、ものすごいエネルギーを費やす作業という事を感じた。

そして、卒業研究論文を書いた事により学んだ事は、常に目的を明確にするということである。私の場合、春semesterから卒業研究論文の執筆に向けて準備をしていたが、本格的に執筆作業に入ったのは10月に入ってからだ。10月の最初のゼミで卒業研究についてのプレゼンテーションを行った。プレゼンテーションをして、結論は未定という事になってしまった。菅原先生は常に、「具体的に」という事をよくおっしゃられるが、その通りだと思うプレゼンテーションをや、自分の研究にはまだ具体性がないと感じた。その次の週から2週間に一度、1章毎に提出という事になった。菅原先生の論文の書き方というサイトを参考にしながら執筆を始めたので、書き方に迷うという事はなかった。論文を書くにあたってとして、

(a)自分の取り組んでいる問題が何であるかを他人が容易に理解できるようにすること

(b)自分が伝えたい結論が何であるかをはっきりさせること

(c)自分の考えの道筋や結論が適切であることを示す証拠や理由を明確に示すこと

と3つの注意点があるが、これは非常に重要な事だと思う。文献を読み、参考サイトを検索していると、自分1人の作業なので一方に偏ってってしまう事があった。そんな時は原点である上の3点に振り返り、自分の方向性を確認した。

論文を書く作業がある時点で思索を打ち切って、その時点の考えをそのまま書き写すというよりは、次々と追加される情報に基づいて考えをつねに深めながら書き進む作業だからである。論文を書き上げて初めて、自分が本当に何を考えていたのかがはっきりすることさえある。そのため、的を絞る作業は、繰り返す必要がある。

実際、卒業研究論文の結論がみえてきたのも執筆作業も終盤であったし、執筆中何度も的を絞る作業は繰り返した。つまりこの事は日常にもいえることだと思う。自分自身の人生を考えた時、次々と追加される情報に基づいて考えを常に深めながら生きなければいけないからである。今後、自分自身の人生の目標を絞るとい事は常にしていかなければいけないと思った。

(2) 反省点

反省すべき所は準備不足である。書く事は入ゼミ当初から菅原先生が何度もおっしゃっていて、昨年の4年生が締め切り間際で慌てているのを実際に見ていたにもかかわらず、実際、自分自身が執筆を開始したのは10月に入ってからであった。準備不足の為、2週間に1回の提出期限を守る事が出来なかった点である。

あと、卒業研究論文を書くという事は精神的にも肉体的にも大変なエネルギーを必要とするので、卒業論文執筆中に精神的に疲れ、卒業研究論文を書く事を断念しようと弱気になってしまった事である。

(3) 今後の改善点

今後の改善点としては、準備を常に意識しなければいけないということである。菅原ゼミの悪い点としていつも準備不足が反省点にあがるが、準備不足を改善する事が全く出来ていない。改善できない理由を考えると、このように反省をするが、全く次回に役立てていないような感じがする。計画を立てる際にまず、前回の反省をもう一度すべきだと思う。そして、反省を活かせるようにすると、更に菅原ゼミがよりよい方向へ向かっていけると思う。

(4) 卒業してからの抱負

卒業してからの抱負は、私の場合、4月からは社会人として社会に出て、親から完全に独立し、自分自身の収入で生活をしていかなければならない。4月からは今までの生活とは違う新生活が始まる。仕事を中心に考えなければいけない生活である。社会の荒波にさらされ、精神的、肉体的にもかなりハードな生活を送る予定である。

しかし、どんな状況でも常に外に目を向けるということである。そして、いつも心に余裕を持てるようにしたい。具体的には仕事の日には全神経を仕事に集中し、休日はいろいろな場所へ出かけ、いろいろうな人に会いに行く事である。そうする事で自分自身をONとOFFとメリハリをつける事で、充実した日々が過ごせると思う

(5) まとめ

このレポートを書いている今日現在、学生生活は残り30日なってしまった。4年間といふ学生生活のなかで30日は大変短い期間ではあるが、残り少ない学生生活で自分自身が後悔しないように学生生活を送りたいと思う

そして、杏林大学で菅原ゼミに出会えて本当によかったと思う。菅原先生、4年生の仲間達、先輩、後輩にお世話になった全ての人に感謝したいと思う

課題レポート

菅原ゼミ 三期生 丹内 見維

1. ゼミで学んだこと

菅原ゼミで私が学んだことでもっとも印象に残り、かつ今後の人生においても重要な要素となると思われるのは、「グローバルリゼーション」といふ言葉に尽きる。ゼミに入ってから2年以上、繰り返し繰り返し、念仏のように耳に入ってきたこの言葉は、今や私の思考の根本に位置していると言って良い。仕事でも娯楽でも何か構想をするとき、国境や言語というハードルを飛び越え、その先の考えに最初から跳躍できる思考ができるようになったのは、私にとっては財産と言ってもよい。「まず日本の中で」といふ最初のステップにつまずく必要がないということは、他の人より一歩先の考え方ができるということだ。これから先はそのような考え方は半ば一般常識として認識されていくだろうが、今の時期にこのようなセンスを日本にいながら身に付けられたことは幸せだったと思う

また、IT関連の知識を少なからず身に付けられたのも菅原ゼミに入っていたからこそだと思う。結果、HP制作に興味を持ち、在学中に専門学校にも通ってしまった。最初はあわよくばHPデザインの仕事に就こうも思ったが、結局は秋田のベンチャー企業に落ち着くことになった。しかしHP制作の経験があるということで、入社前からすでにその会社のHP管理の仕事をするようになった。もちろん、それだけやっていたら良いという環境ではない。小さい会社でスタッフも少ないので、営業、商品開発からマーケティングまで、なんでもやらなきゃならない会社だからだ。でも最初からIT関連の仕事はすべて任せてもらったのは、その知識があったからこそだと思う。菅原ゼミに入っていなければ、このような仕事もできなかった。

2. 反省点

私がゼミで反省すべき点は、年齢に応じたリーダーシップをとらなかつたことだ。一応断っておくが、私は行動力がないわけではないし、適応力も十分にあると思う。学級委員的な役割は中高で何度も経験しているので、まとめ役になろうと思えばすぐにでもできた。だが私は入ゼミ当時から遠慮があった。なぜと言われても私自身よく分からないが、今にしてみれば、おそらく杏林大学生としてどこか納得しきれないところがあったのだと思う。私は以前、医者になりたかった。しかし結局もろもろの事情により諦めざるを得なかつた。しかし一度志した夢は、そう簡単に忘れられるものではない。杏林大学に入ってから相当の間、私は鬱々したものを感じていた。「はたしてこのままで良いのだろうか」、「この環境に甘んじたままで何が成

せるのか」などという下らないことを日がな一日考えていたと思う。結局この鬱積した気持ちが吹き飛んだのは、これからお世話になるベンチャー企業の社長に会ってからだ。彼の生き様や人生観に直に触れたことで（お互い泥酔状態だった）、新しい生き方へ身を投じるふんぎりがついた。それが大体3年の後半のことだったと思う。それからはかなり自然体で生活できるようになった。しかしその頃にはすでにゼミでの役割分担はすでに出来ていたし、それぞれのキャラクターも確立していた。今さら本領発揮もないと思い、結局これからは「空気のような丹内君」を心がけるようにしたわけである。

私が菅原ゼミに必要以上に関わることが出来なかったのは、今考えるとなんとも残念なことと言わざるを得ない。しかし私にとって杏林大学生活というのは、おそらく「過去の決別」と「未来への挑戦」を果たすことだったのだ。それで精一杯だった時期がゼミ活動中も確かにあった。それを考えれば、いつもギリギリではあったが、最後まで何とか食らいついていくことが出来た私のゼミ活動は、一応及第点だったのではないかと私自身は思うのである。

3. 今後の改善点

今後、改善していかななくてはならないことは特になし。あえて言うなら、自分らしく生きていくことだろうか。仕事という弊の中で、いかに自由に生きていけるかがこれからの課題となるだろう。しかし大企業のようにがんじがらめの職場ではないので、そういう意味ではあまり悲観していない。その代わり、何でもやらなければならないので、違う意味では頭が痛い要素もある。ただ、将来の幹部を目指すという野心がある以上、自分のスキルアップには常に貪欲であらいたいと思っている。

4. 卒業後の抱負

先にも述べたが、私の最終目標は一国一城の主である。男ならトップを目指すのは当然であるから。もっとも従業員7名のベンチャー企業であるから、それほど大きな野望ではないが、やりようによっては今後、5年、10年の間にどれだけ延びるか分からない会社である（やはり特許を持っているというのは強いだろう）。私がそれ相応の年齢になる頃には結構な大所帯になっている可能性もある。その会社を私の手腕で取り仕切るようになることが、卒業後の抱負とらか、目標である。

5. その他

とりあえず楽しみなのは、三期生の連中が今の私の年齢（28歳）になったころ、何をしているかだ。私はこんな感じだが、他のみんなはさぞかし輝かしいキャリアを積んでいることだろう。菅原ゼミで学んだことを、私より6年も早く人生の中で実践できるのだから。

最後に今さらですが、菅原先生に感謝の意を表したいと思います。先述にもある通り、私は決して良いゼミ生ではありませんでした。自分のことで精一杯で、集団活動に勤む余裕がなかったのです。そんな私を最後まで除ゼミにされなかったことには本当に感謝しています。もし今後、お互い正体がなくなるまでべべれけになるような機会があれば、先生とざっくばらんな会話をしたいと思っています。秋田の人間はアルコールが血中の80%以上にならないと本性を見せませんから（特論、一般論ではありません）。もちろん、「できればの話」です。無理酒はいけませんからね。

ゼミを振り返って

永田幸子

(1) ゼミで学んだ事

大学に入学しただけでは知りえなかったことに、問題解決への道を探るということがあった。大学の講義を受けている限りでは、受講し、試験を受けてそれなりの評価がもらえれば単位になる。しかし、ゼミでは、より深く考え、現在起こっている現象から、その原因をつきとめ、現象による影響と、今後について探るという基本的な考え方があるという。これは、一点だけを見るのではなく、広い視野で見渡し、考える能力を鍛えると思う。そして、影響、今後について考えることにより、問題を見つけ出し、その問題解決への糸口を探るということにつながる。日常の中、世の中、生活の中、あらゆる状況において、常に問題意識を持ちながら生きることが、大切だと思う。

(2) 反省点

提出がギリギリだったり、期限を過ぎていたりしたこと。自分への甘えが生じさせたことだ。

課題などをやりっぱなしにしてしまったことが多かったこと。例えば、プレゼンテーションやレジュメ発表で「次回調べてきます」と言ったことを、一つもできていなかったのではないかと思う。

(3) 今後の改善点

自分に厳しく。自分を甘えさせていては、ステップアップできない。

ゼミ全体のことに關しては、一人一人が、ゼミに対する優先度を高めるべきだと思う。個人の都合があるのは最もだが、菅原ゼミナールに入ってきたからには、菅原ゼミナールの一員としてゼミを優先させることも大事だ。「バイトがあるから」、「実家に帰るから」と、理由をつければ切りがない。菅原ゼミナールの強制力が弱すぎるようにも思う。自主的に学ぶ姿勢を重んじることは大切だが、物事を決定する時に人が集まらないのではどうしようもない。いくら強制力が効いた上で、学生の自主的な姿勢によるゼミを目指すことが良いと思う。

(4) 卒業してからの抱負

卒業してからは、就職し、社会人として実質的に自立していくことになる。社会人として恥ずかしくない行動をとり、しかし、朱に交われば朱に染まるだけではなく、私は私のカラーを持って、良い部分を伸ばしていきながら成長していきたい。常に相手の立場を考え、謙虚な姿勢でいたい。他人の意見に耳を貸しながら、自分の信じるところに従っていきたい。

(5) その他

これから1年間、菅原先生がアメリカに行ってしまうので、今までとは勝手が違い、ゼミの形式が大きく変化すると思うけれど、杏林大学で一番大変だと言われている菅原ゼミで、皆さん大きく成長してください。

私のゼミ生活について

4年 勾 暁光 (中国)

あと半年でも卒業ですが、すごく早いと思いました。

振り返ると私はゼミの海外活動にほとんど参加していないのが、悔しいことです。当時の事情によって対応不足でした。ゼミ生全員と海外へいくことは、もできないと思います。時間が経つのは早いく、私以外の四年生はもう卒業し、社会人になります。これから忙しくなると思います。四年の私は、寂しく感じます。

今の四年生のおかげで、私は楽しいゼミ生活を送ることができました。最初に入ゼミした時、何にも分からない私を支えてくれたのは、先輩と今の四年生達です。英語は誰でもできるようになれるし、それは個人の努力しただと言われた先輩たち、プレゼン一緒に頑張りましょうと言われた四年生たちの姿は、今でもよく浮かんできます。やっぱり自分の努力が足りなかったために、英語もプレゼンもうまくはなりません。でも、ある程度ゼミで学んだプレゼンの仕方が、仕事と生活に役立っています。

先生やゼミ生との交流で、日本人の考え方、生活、就職情報などなど、たくさんの知識を得られました。私にとって二年間のゼミ生活は、日本で一番良い思い出です。昔、本を読むのが苦手でした。ゼミに入ってからは段々と本を読めるようになりました。最初は一ヶ月、二ヶ月とかかるのですが、徐々に三、四週間になり、最近では、文庫サイズの本は、二週間で読み終われます。嬉しいです。これからも、たくさん本を読むつもりです。

今年の八月に卒業ですが、九月にある大学院の入試は受験できないと思っています。来年の二月にできるだけ大学院の入試を受けたいです。

菅原ゼミレポート

3年 岩崎 雄樹

- 1.ゼミで学んだこと
- 2.反省点
- 3.今後の改善点
- 4.新年度の抱負
- 5.その他

1.ゼミで学んだこと

私がゼミで学んだと考えることは、多々あるのだが、一番強く考えるのが私自身の心境の変化である。どうしたことかという、2年生の後期からゼミに入り、少しずつだが私は変わったと確信している。

それは、入った当初はゼミに馴染めず困惑した。しかし、時間が経つにつれ徐々に人間関係が取れるようになり、今日では自分の居場所として非常に心地よい場所となっている。それは、たくさんの人たちと交流できたからである。先日の長崎合宿での菅原ゼミのホスピタリティーではないが、他者と出会い、触れ合い、高めあうことで自分が影響され自己成長に強くつながったと考えています。

恩師、菅原先生との出会い、2つ上の先輩、4年生、そして2年生である。まず先輩たちから学んだことを述べると、ゼミに対する姿勢、取り組み方である。これは、自分たちは仲良しサークルではなくゼミナールなんだ、という目的意識の違いである。

私自身特に、2年生の時はゼミこぶら下がっていて、先輩から見たら厄介な2年生と写っていても仕方がないぐらいの取

り組みだった。それは、私自身がなんで、ここまでゼミに時間を取られ、振り回されなければいけないのかと常に考えていたからである。しかし、その考え方も3年生になり2つ上の先輩が卒業し、4年生が就職活動であまりゼミに顔を出さなくなつて、自分たちがゼミの主役になったときぐらいから変わっていった。それは、毎回課題が出され、7人という少ない人数になってから、ゼミ生であるという自覚、責任感が芽生えてきたからである。何より、それなりに、課題に取り組み経済学を学んでいくことにより、少しずつ理解できてきて楽しみながら学ぶことができたからである。そして、そのときぐらいからパソコンにしてもレジメにしてもプレゼンテーションにしても、自分のスキルが上がったなど感じることができ、ちゃんと自分へのリターンになっていると強く感じたからである。

菅原先生から学んだことは、多すぎてうまく言葉に表せませんが一番強く考えることは技術的なことではなくて、内面的に精神的に菅原イズムといった言葉は悪いかもしれませんが、先生の考え方や価値観をより多く吸収して刺激され、強く影響されています。先生の一語一句には説得力があり、利にかなっており、毎回目から鱗が落ちていきます。

そして、何より多くのチャンスがあり、視野という扉の数を10も20も30も増やしていただいていたと感じています。合宿や日銀訪問の中でやはり私は海外研修というのが何より衝撃的でいろいろな面でよい経験をして、影響されました。具体的には、自分自身を見つめなおすことや、自分がいかにぬるま湯に浸かっていたということが再認識でき自分自身に自問自答するようになり、心の中の何かが変わっていて、影響を受けていると強く感じました。

今日、就職活動を行っている中でゼミに、菅原ゼミに入っていて良かったとしみじみ思うことが多々あります。仮に私が、ゼミに入っていなければ間違いなく現在の自分はないと考えます。2年生の前期までの、何も目標もなく、ただ毎日バイトとともに過ごし、へたしたら就職なんて考えてなかったかもしれません。

私自身、ゼミに入って大きく成長できたとは自分からは言えませんが、考え方や精神的に前向きになれ、何より私自身の心境の変化が一番の得たこと、学んだことと考えています。

2・反省点

反省点とらば、先後悔の念があるのだが、それは先輩たちとの交流だ。中には個人的にも非常に仲良くしてくださった先輩もいるが、多少、壁があった先輩もいた。特に2つ上の先輩方には迷惑を多くかけたと感じている。そのころ、2年生であった私は、ゼミに対する意欲が薄く、やたらと絡んでくる先輩を煙たがったりしてしまっていた。本当に申し訳ないと感じている。けれど、今になってみれば、先輩方の姿勢や取り組みには尊敬するし、また、良い、手本になっている。

先輩から見たら私は背も高いし、顔も老け顔なので、絡みづらかったかもしれない。それにより多少の壁は感じたが、何より私自身が照れや、タイミングの問題で心を閉ざしていたのだらうと考える。もっともっと積極的に先輩たちに絡んでいき、より多くのことを吸収したかった。

反省点として、今までいかにゼミ長に頼り、任していたなど考える。途中からゼミ長を補佐しようと影からやってきたつもりだが、肝心なところや厄介な点では他人任せであった点だ。

それと、先生の期待に答えず、何度もがっかりさせてしまった点だ。与えられたことは、一応やるが、内容が浅いことや、それ以上のことは自分たちからやらず、何度も先生のやる気に水を指してしまったことが悔やまれるし、また情けない。

3・今後の改善点

今後の改善点として、長崎国際大学の吉原ゼミの円卓形式を見習って、各個人に役割にリーダーを課し自覚して意識することにより、ゼミ内の効率化を図り、協力してやっていく点。個人的にゼミを引っ張り、皆がついてきてくれるように、気配りをする点。

よりゼミ内の交流が深まるように努める。具体的に飲み会をする、食事会をする、ミーティングをするである。

最高学年として、先輩から受け継いだ考えや概念を忠実に教える。行動で示す。何か、行事の前の用意には、時間を費やし事前の準備が足りなかったというのをなくす。時間厳守を守り、ほづれんそうを徹底する。皆が、人任せではなく自分が自分が積極的に自分を発信する。

4 新年度の抱負

新年度の抱負として、1年間先生不在とい期間をどう使うかは、自分たち3年生にとっては、2年生の未来を預かっていると同じことなので、2年生を刺激して、少しでも前向きな方向に導いていくことが重要になり、また私たちの課題であると考ええる。

卒業論文では、身近で本当にぎりぎりだった先輩を目の当たりにしているので、就職が決まって落ち着いたら夏前からはじめます。

3年生をよりよい仲間として、協力してゼミを盛り上げ、できる限りのことはやろうと考えています。春からは、月に何回かは、集まろうと考えていて、そのときは、ゼミ長とゼミ生と一緒にゼミをまとめようと考えています。

まだ、状況によってはいけなくなることもあるが、現時点でも非常に興味がある海外研修を旅行係りと協力するのと、仮に2年生が拒んだら説得をしたいです。

5 その他

この場を借りて、照れるのですが、述べておきます。私は本当にゼミに入って菅原先生の指導を受けられて良かったと感じています。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。来年先生が、アメリカへ行くと聞いたとき本当に残念に感じました。しかしそのことを前向きにとらえ、では、どうしたらよいか、何をしなくてはならないかと、まだまだ、これからもこんな私ですが、ご指導のほど、よろしくおねがいします。

以上

私の菅原ゼミ ~ 2002年を振り返って~

3年 小澤久美子

1. ゼミで学んだ事
2. 反省
3. 今後の改善点
4. 新年度の抱負
5. その他

1. ゼミで学んだ事

まず、経済のことについても、ゼミで色々学ばせてもらったが、そのたびに人に聞くのではなく自分で調べたことを学んだ。情報社会であり、インターネットを開けばたいいことは載っている。そこまでも人に聞いたりして、前の自分ではしていなかったことに気づいた。そして、それを繰り返していくうちに、前より集中力がついたと思う。

海外研修では、やはり自分で現実を見たことにより、考えるだけでなく、肌で感じる事ができた。テレビや新聞や人から話を聞いただけでは、私とは遠い現実くらいにしか思えなかった。しかし、町の風景や匂い、ベトナムやタイで多くの人やストリートチルドレンに出会えたことにより、今まで私が生きてきて、悩んだことや怒ったことなど全てのことが小さく見えてしまった。精一杯生きている人を目の当たりにしたからである。私には、色々なところにチャンスが転がっているのに彼らにはそ

れすら与えられない環境である。それなのに、何もしていない自分に羞恥を覚えた。しかし、過去のことを咎めてもしかたがないため、これからの自分を変えていかなければならないと思った。

この研修は、本当に一瞬、一瞬が貴重な経験で大切な時間を過ごせたことにより、新たな時間の過ごし方を学ぶことができた。また、そういう時間を過ごすことができる自分が、幸せだということを実感した。

そして、この旅行からは、弓取さんや戸井くんや岩崎君に頼ってしまったが、人任せではなく、自分で積極的に取り組むということを学んだ。

2:反省点

3年生の前期・後期とも課題が分けられ、自分の配分が少なくなり怠けてしまっていた。相変わらず質問や発言も無く、ただ淡々と過ぎてしまった。3年生になり最初に感じたのは、2期生の4年生がもういなくなってしまうことだ。誰かが発表し、質問の最後はいつも井上さんがまとめてくれていた。しかし、その役目はしっかりと3期生の4年生が担っていた。私ももう4年生になるが、そのような役目が引き受けられるのかとても心配であるが、3期生の4年生がいなくなり、どんなに4年生にぶら下がっていたかを実感することだと思う。

3:今後の改善点

2年生が入り、少しは先輩として、自覚しなければならぬと思っていた。しかし、空回りだった。2年生の方が堂々とプレゼンや意見を発言しており驚いた。私は相変わらず、何も、何も、発展していなかった。上手く言葉で表現することができていないため、いつも友達に助けられている状態である。今まで何とか通り過ぎてきたが、もうすぐ社会人として恥ずべきことである。「慣れたよ」と人はいうが、なかなか慣れないため、少しずつ地味に発言していきたいと考えている。

そして、旅行においては、何より必要なものとして、2つある。1つ目は準備である。旅行にいったから気づくことが多い。それでは、遅いのである。次回は、同じ過ちを繰り返さないようにしなければならない。2つ目は積極性である。人任せにするのではなく、自分から取り組まなくてはならない。人に言われてからではなく、何か手伝えることはないか、向こうに言ったら何が必要になるかなど、自分で積極的に行動し協力していかなくてはならない。どちらとも当たり前の話だが、今回の海外研修ではできていなかった。次回の教訓である。

また、私はいつもマイペースなため、人との時間の感覚やモノの見方がずれているらしく、旅行に行ったメンバーにかなりの迷惑をかけてしまった。団体行動ということもあり、これからの生活においても旅行においても迷惑をかけないようにしたい。

4:新年度の抱負

- 1、内定をもらうこと
- 2、発言すること
- 3、話しを上手くまとめること
- 4、英語・漢字の上達
- 5、もっと積極的になること
- 6、本をよむこと
- 7、内定をもらうこと

5:その他自由に

菅原先生をはじめ、今のゼミの皆に出会えたことにとっても感謝している。このゼミに入らなかったら今日の私は無いただろう。

ゼミで学んだ経済と現実をからめて考えることもなかったかもしれないし、そのおかげで多くの感情や考えが湧き上がることはなかったと思う。また、パソコンにのめり込むこともなかっただろう。そして、何よりもこんなにも先生や先輩や友達に出会った事もなかったと思う。私の成長は、確かに他の皆に比べると遅い。しかし、旅行やゼミなどにより、多くのことを肌で実感し、考え、話し合ったことにより、モノの見方や考え方、価値観、時間の使い方が変わった。それも、菅原先生が極限まで私を追い詰めてくれたのと、ゼミの皆がいてくれたからである。ゼミに入った頃は、ゼミの友達に会うとゼミの課題のことが頭に浮かび、「ガンバロウネ！」が口癖であまりいゝ気はしなかった。しかし、ふと感じたのだが、3年生の夏ごろからゼミの友達といえるのにもかわらず、安堵している自分に気がついた。これも、皆で多くの困難と障害に立ち向かったからである。

他にも長崎研修や相模湖合宿や日本銀行など色々行ったが、こゝろ機会を持たせていただいたことにとても感謝している。どれも私の身になっていることは確かである。

本年どもご迷惑をおかけしないようにしますが、おかけするかもしれません。そのときは皆様、どうぞよろしくお願ひ致します。

ゼミを振り返って

3年 栗城 宏行

● ゼミで学んだ事

このゼミで今まで学んできた事は、他ではなかなかできないようなことを積極的に学ぶことができたと感じている。

パソコン、インターネットを使用するようになったことも、その一つに入るといいます。もしこのゼミに入っていなかったらパソコンやインターネットを使用して勉強するような事は無かったのではないかと思います。他のゼミの人の話を聞いても、普段パソコンやインターネットを使う機会はありませんと聞いています。しかし、まだ自分が完璧に使いこなせているとはいえないと思うので、これからは、より積極的にインターネット、メールを活用する事や、自分のウェブサイトを作る事を課題として、さらにITに強くなっていく訓練をしていこうと思います。

また、このゼミで学んだ事として、自分の視野が広がった事も大きいと思います。海外研修を行なったこともそうですし、普段のゼミの授業でも大きく変わったと思います。

● 反省点、改善点

今までの自分のゼミの活動を振り返って、反省点は、課題の提出がおろそかになっていたこと、国際投資論の授業が特に欠席が多くなってしまったこと、本を読まなかった事、ゼミに対しての姿勢が消極的だったことです。

まず、課題に提出に関しては特に、これから先生がアメリカに行ってしまうからは、全て自分から積極的に勉強していかなければゼミの意味がなくなってしまうので、この反省点を生かし、失敗を繰り返さないようにしたいと思います。

また、先日、日銀の三重野先生とお会いした時に感じたこととして、ゼミとらよりは、自分の学生生活に関わる事なのだが、今まで本を読む機会が少なすぎた事を痛感した。ゼミに入ってから、課題で出た本については読んでいたが、自発的に本を読む機会が少なかった。これからは、木曜日のゼミの時間がなくなる分、自分の時間が多くなるので、時間を有効に使い本を読む機会を増やしていこうと思っています。

ゼミに対しての姿勢が消極的だったことについては、今までは、自分の課題や役割だけやっていたらいいやという考えがどこかにあって、ゼミ長や他の人に頼って、任せっきりになっていた。先日の長崎国際大学との交流会で、発見があったのが、円卓型で一人一人に責任を課し、ゼミ長はいないということだった。その方が、誰か一人に負担がかかってしまうことも無くなり、良い点が多いと感じた。自分たちも、完璧にまねをする必要は無いと思うが、一人一人が責任を持って、人任せにし

ない姿勢は、見習うべきものだと感じた。

- 新年度の抱負

今年は、前半は、ゼミの課題の提出、ウェブサイトの作成、就職を決める事を目標としていこうと思います。また、後期の目標として、当然ながら卒論の作成となるが、まだ今現在テーマもはっきりしていないような状態なので、前半のうちから計画的に進めたい。今まで、課題提出をギリギリまで先延ばししてしまう癖があったので、卒論こそは期限に十分な余裕を持って進めていきたいと思っています。

- その他

最後に思ったこととして、このように振り返った事、反省点を常に忘れないようにし、この事を常に考え、無駄にしないようにすることが重要だと感じました。

これまでの1年半のゼミを振り返ってみて

3年 坂本 佑美

(1) ゼミで学んだ事

「原点」を知り「目標」を持ち続けることが新たな喜びへ繋がる事を学んだ。

私の英語嫌いは周囲の人が認めるほどだった。しかし、英語の文献で勉強し、また、海外研修を行ったことによって英語を話せるようになりたいと強く思う自分がいることに気づいた。これは知恵の輪がはずれていく様なような気分と喜びでいっぱいになった。今は少しずつだが自主的に英語の勉強をするようになった。まだ自由に話せるというには程遠いが、英語の勉強をする事を面白いと感じることができる。目標は世界中の多くの人と直接自分で話せるようになることだ。

また、パソコン嫌いも相当なものだった。今となっては無くしてはならないものになっているから本当に不思議なものだ。パソコンの技術を習得できたことも大きいですが、それ以上にパソコンを使って授業中に大勢の前でプレゼンテーションをしたことは大きな自信となっている。おかげで最近ちょっとしたことで緊張をしなくなったし、考えたことを人前で話すということに以前ほど抵抗を感じなくなった。

次に自分ひとりではできなかった経験を積むことができた。海外研修をはじめ、他大学との交流、日銀訪問等は、机に向かうだけでは学べない事を得ることとなった。

そして、ゼミに入らなかつたら出会えなかつた人たちと出会えたこと、出かけた先で偶然出会えた人、考えることの大切さを教えてくれた人。偶然に同じゼミに入った2年生、3年生、4年生、そして菅原先生との出会い。今思うと、これらの出会いが一番大きな財産になっているのかもしれない。

(2)反省点・(3)今後の改善点

1.何をしても他人任せにしていた部分が多かったこと。2.時間を守れない事があったこと。3.やりたくないこと(主に課題)をギリギリまで後回しにしてしまうこと。

ゼミに入って集団行動の難しさを改めて知った。だからこそ上記のことを自分で意識しながら改善しなくてはいけないのだと感じる。1や2については努力をして、自分から積極的に取り組めるようになりたい。3については反省点であると同時に追い込む事でやる気を出しているような気もする。しかし、追い込みすぎて杜撰な結果にならないようにしたい。

(4)新年度の抱負

先日の長崎合宿で4年生がいなかったということの大きさを知り、今度こそ本当に他人任せにすることができなくなると実感し

た。3年生全員でも話し合ったが、自分たちが何をやるべきかを考えていかななくてはならない。大学生最後の1年間、社会人になってからでは持つことが少なくなるだろう自由な時間を有効に活用し、自分自身と正面から向き合って本当にいろいろな事を考え直していきたい。抽象的な言葉が多くなってしまうのは自分の目標が漠然としていて、まだはっきりしていないからだろう。この漠然としているものをこれからの1年間で形にできるようにしたい。

(5)その他

ゼミに入った頃、課題の多さなどに負けそう、何度ゼミをやめようと思ったかわかりません。毎週木曜日になると頭痛までありました。先生の考え方に反抗心を持った事もあります。今でも疑問に思うことや、つらいと感じる事はあります。でも、ゼミに入って本当によかったと思うようになりました。このゼミに入らなかったら考えることも、経験することもなま大学生活を終えていただろうとらことが多々あります。

私がゼミに入って良かったと感じるようになったのは、今年の夏休み前くらいからだと思います。先生から学ぶことを、素直に受け止めることが出来るようになったからです。先生がアメリカに行ってしまうことは正直残念です。まだまだ直接会って聞きたいことや学びたかったことがあります。

私たちが学んだことを、先生がいない状態で2年生にどう伝えていくかを3年生で話し合いました。今年の今頃、私はゼミに対して入ってよかったとい気持ちにはまだなっていませんでした。むしろ後悔の方が大きかったかもしれません。4年生が私たちに伝えようとしてくれたのに、結局自分たちで経験しないと納得しなかったのと同じように、口で伝えようとしてもやはり難しいのだと思います。それでも、少しずつでも伝えていき、そして海外研修等で私たちが感じたものを直接感じてほしいです。

これまでの1年半、数々の貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。成長したいとい気持ちは常に持ち続けていきますので、今後もよろしく願いいたします。

ゼミ

3年ゼミ長 戸井 俊夫

1,ゼミで学んだこと

ゼミについて学んだことは2つある。

- 1, 経済や英語はもちろんだが、一番大きいのはこれから先、経験できないような経験をさせてもらったことだ。それは、自分一人でも無理だし、友達でも駄目なはずだ。ゼミだからできたような気がする。ベトナムを初め、他とはひと味違った杏林祭、相模湖合宿、日銀などである。そのおかげで、自分の考え方、視野が広がったと感じる。また、自分自身まだまだだなど感じさせてもらっている
- 2, ゼミ長をやらせてもらい、まとめることの大変さ、人の前で話す大変さ、たくさん大変さを経験させてもらった。自分自身これは将来絶対にプラスになると思っているので、大変、つらいなど、普通の大学生活では味わえなかったことがゼミに入って良かったと感じることである

2,反省点

自分としては3つの反省点がある

- 1, ゼミというのは本来自分たちの意見を言い合って進めていくものだが、先生の意見に頼りすぎている。また、先輩達にいつも頼っていたため自分がいざゼミの一番上の学年になると浮き足立ってしまい、ダラダラしたゼミになってしまったこと
- 2, 研修旅行で実行するのが遅い、時間にルーズ、調べとけば良かったなど毎回反省に出るが、毎回改善できてない点。しかし、全部いっきに改善できるとは思わない。だから、このレベルが低い反省点を自分が先頭にたつてなおしたい。
- 3, 自分はゼミ長だったのに、ゼミ長らしくなかったと感じる。しかし、その点は先生もアメリカに行く、2年生もわからないことがあると思うので、自分なりにバックアップをし、時には先頭に立って今まで分の反省をいかしながらがんばりたい。

3, 今後の改善点

反省点を改善していくのはもちろんだが、これまで以上に自覚を持たなければならない。なぜなら、今回は先生がアメリカに行ってしまうので先生がいらない菅原ゼミが始まるからだ。不安はとてもあるが、今まで先生に頼っていた分、自分達が成長できるチャンスだと考えている。自分たち自身、菅原ゼミに対する考え方をもう一度、考え直すことが一番重要じゃないか考える。

4, 新年度の抱負

今年、自分は3つの抱負を掲げる。

- 1, 就職の時期に来ているが、周りの行動や意見に左右されないようにする。
- 2, 自分で考えるというテーマを持つ。常に「なんでだろう?」という疑問を持ち考える。また、本を月、一冊～二冊読み考える力を高める。だから今年は、自分で考え、自分の意見を表現できるようにしたい。
- 3, 先生もアメリカに挑戦しに行くという事で、自分も今年は、挑戦するという事を今年のテーマにしていこうと思う。

5, その他

反省点でも書いたが、自分はゼミ長なのにまとめられていない気がする。先生も、その点については不安だと思いが3年生の力などを借りて自分のできる範囲でがんばるので先生も体調に気をつけてアメリカでがんばってください。

2年 健木 麻由

(1)ゼミで学んだ事

一言で言えば、人のしない事をする事の意義についてである。その一つである、他大学との交流会は、菅原ゼミでなければできない事であり、そこから得た経験は、私の考えていた常識というものをくつがえすものだった。

自分の狭い地域から離れ、世界といふ広い地域に足を運び、様々な人、考え・文化に触れることは、とてもいろいろなことを考えさせられ、とても良い勉強になった。

(2)反省点

先輩や周りのみんなに頼りすぎていたように思う。つまり、ゼミ長としてだけでなく、ゼミの一員として意識が不十分だった。

例えば、長崎合宿において、私たち2年が主体となり進めて行かねばならなかった。それを、今村さんただ一人に任

せっきりにしてしまったことは、一番の反省点であろう

(3)今後の改善点

ゼミの一員としての意識を持ち、自分に課せられた責務を果たしていくことだと思う

(4)新年度の抱負

これからインターネットを通してのゼミ活動という先輩たちも経験した事がない状態になる。まだ、どのようにゼミを行っていくかわからない状態だが、菅原ゼミの一員としての認識を高め、きちんと自分の責務を果たせるように、自分のやるべきことを一つ一つこなして行きたい。

これまでのゼミを振り返って

2年 栄村 沙也可

菅原ゼミを選んだ理由、1.国際経済を学びたい、2.パソコンを使いこなしたい、3.海外合宿ができる、4.ゼミ内雰囲気にかかれた、です。

他のゼミとは違う何かを感じ、菅原ゼミを選びました。ゼミでの活動はあまりよく分かっていなかったが、やる気はとてもありました。しかし、そのやる気も行動に移さなければ何も意味のないものです。私は、初めのやる気はどこにいったのだろうと思うくらい辛いことから逃げてしまいました。ゼミに入り、今まで自分に甘かったのだなど改めて感じました。毎回毎回ゼミでは課題が与えられます。必ず自分の役割があるので、それをしなかったら、他の人と差がつくし、グループでする事もあったので、他の人にも迷惑をかけてしまいます。私は、迷惑をかけっぱなしでした。辛いことから逃げてばかりでした。私は、この1ヶ月間何が一番大事なのかが、分からなくなっていました。バイトばかりしてしまい、体調を崩すこともありました。もう少し自分の生活を見直さないといけないなど反省しています。

そして、自分の知識のなさを思い知らされました。正直、高校までは社会と言われる分野は苦手で、今まで何の興味もありませんでした。最近、少しだけ興味を持ち始めましたが、少しも知識がなかったので、ゼミの課題がでた時は内容理解に苦しみました。先輩たちのプレゼンに対する質問もできませんでした。人より知識がない分、倍勉強をしなくてはと思います。

今後は、(進級試験に受かったらですが...)辛いことから逃げず、余裕を持ってゼミに望みたいと思います。日頃から新聞やニュースを見て世界経済に目を向けて知識を身につけ、常に何にでも考えるようにしていきたいです。

新年度の抱負として、これだけは誰にも負けないという分野を見つけようと思います。そして、今の自分には何が一番大切なのか考えて生活していきたいです。今年は、就職活動が始まってしまいます。私のなりたい職業は、他のものより早いので、三年生は今年度より忙しく、辛い年になると思います。けど、将来のために現実から逃げないで精一杯立ち向かっていきたいです。

今、ネクスト・ソサエティを読んではいらるのですが、正直、口頭試問で合格するか自信がありません。途中、ゼミが嫌になることもありましたが、今は続けたい気持ちでいっぱいです。早め、早めに取り組んで、後悔しないように頑張りたいと思います。何に関しても与えられたものだけをするのではなく、自分で積極的に取り組んでいかなければいけないと、ゼミに入り感じました。とりあえず、今は、除ゼミにならないようにネクスト・ソサエティを極めたいです。

半年間、お世話になりました。どうもありがとうございました。来年も先生の許で学習できることを祈っています。

(1)ゼミで学んだ事

先生の色々なお話を伺い、いかに自分が甘かったか今更ながら気付かされた。また、先輩達のプレゼンのすばらしさや、プレゼン時の質疑応答の鋭さに驚き、自分の知識のなさに愕然とした。

菅原ゼミに参加してから経済への関心が高まり、経済に関する本を少しずつだが読み始めた。そして徐々にマスコミでの報道の一部分が時には間違いで、真実は違うところに隠されていると知り、ますます興味を持つことが出来た。大学に入ってから初めてのゼミでの団体生活において、自分の協調性のなさに気付き自己反省した。もっとゼミの仲間一人一人の優れた所を学び、自分を高めていきたい。

(2)反省点

- 経済やグローバル化に関する専門的な知識が乏しかった。
- プレゼンを聞いて全て受け入れるばかりで、質問や意見することが少なかった。
- 自分を甘やかし、先輩や他の人に頼ってしまった。
- 向学心が欠乏していた。
- 自己表現が乏しかった。
- 2年生全体の意識が低く、団結することが出来なかった。

(3)今後の改善点

- たくさんの本を読み、知識を広げ教養を身につける。
- プレゼンを聞いたとき、それに関して自分で考え、疑問に思ったことは失敗を恐れずにどんなことでも質問する。
- 他人任せにしないで自主性を持つ。
- 2年生全体で意識を高め、団結して行動する。
- 将来の目標をしっかりと持ち、自分自身を確立する。

(4)新年度の抱負

試練の風こそ、飛躍の力！！！！

(5)その他自由に

今年の夏のゼミ合宿が楽しみです。これを機会に英語の勉強をし、知識の幅を広げていきたい。

これまでのゼミを振り返って

(1)ゼミで学んだこと

まず、この菅原ゼミに入って変わったことは、以前よりパソコンを活用して、こうという意識が出てきた。以前ならレポートを作成する場合にはワードより手書きの方が早いということで手書きでレポートを作成していたが、このゼミに入りパソコンを積極的に使わなければ損するとい考えになれた。

また、大学に入ってから活字の本というのを数えるほどしか読んでいなかった、しかしそれは本が自分に与えてくれる影響がどんなものかよく分からなかったからということを感じることが出来た。といってもゼミに入ってからそんなに多くの本を読

んだわけではないが、しままで読まなかった世界経済の本を一冊読んだだけでも達成感を味わうことが出来た。確かに、頭は今までに読んだ本とは比べものにならないくらい疲れた、しかし本というのは知識を与えてくれるだけではなく日本語の表現の勉強にもなり、本というものが大きな影響力をもっていることに気付けた。三重野先生が言ったとおりに今の日本の学生には考える力が足りないと思う。そこで、知識を蓄えるための近道として本の重要性に気付けたことは本当によかった。

(2)反省点

まず、課題への取り組み方、課題は誰のため、何のためにやるのか？とらことが自分自身分かっていなかったこと。勿論、課題というのは自分の力をつけるためのものだが、だされたからやっているという意識が強かった。

また、これも課題への取り組み方につながってくるのだが、いつもプレゼンの準備にしても、課題にしても、期日が迫ってくると急いでやって、あまり満足いくプレゼンが出来なかったり、課題が終わらなかったりしたこと。

(3)改善点

課題への取り組み方、課題へ取り組む意識、を変えていくこと。課題というのは、自分の力を向上させるためにやるものなので、意識としては、課題の中から何かを得ようという気持ちを持って取り組み、やったことは自分の力に変えていく。やりっぱなしにはしない。

何をやるにしても、期日までには、しっかりと余裕を持って取り組む。いつもは、ギリギリになってから課題やプレゼンの準備をしていたため、分からない語句があっても調べる時間がなく、そのような語句はなるべく使わないようにして、ごまかしながら、やっていたが、課題が出されても、余裕を持って、取り組んでいくこと。

(4)今後の課題

まずは本を読むことを習慣づけていくこと。勿論、知識を増やすという目的もあるが、自分の頭であって伝えたいことが言葉に出来ないことが多かったので、本を通して日本語表現についても学んでいき、言葉に出来ないもどかしさを感じないようにする。

あと、英語の勉強も始めたい、大学に入り、英語はさぼり気味になっていたのも、また基礎からやり直しをしていくこと。

菅原ゼミと私

2年 村松 翔子

私が菅原ゼミの一員になってから約半年がすぎた。あっという間の半年間だった。その半年間で学んだこと。一番心に残っているのは、本一冊を読んでレジュメにまとめる課題。グローバルゼーションに関する本なら何でもいと言われたが、実際グローバルゼーションなんてさっぱりわからなかった。しかも、本を読む習慣がなかったので、なかなかページは進まず徹夜もした。期限をすぎてもいかなど弱い心に負けそうになったこともあった。しかし、周りの頑張る姿や自分の意地などに支えられ、なんとか期限までに完成することができた。その時は本当に嬉しかった。すごく疲れたけど、心地良い疲労感だったような気がする。頑張るってやっぱりいいことなんだなと本当に感じる事が出来た。

頑張ることの素晴らしさ、それが一番学ばせてもらったことだと思う。それと同時に、その課題に対しての後悔もある。グローバルゼーションに関する本なら何でもいと言われ、私が本を選んだ基準は、なるべく簡単なもの、なるべく薄いもの、なるべく安いものの三つだった。菅原先生はよく、「自分への投資は惜しんじやいけない。」困難に自分から挑むように。」と

っしゃっていた。しかし、私はまったくその逆だった。どうせやるなら楽な方に逃げないで、難しいことに挑戦すれば良かったと思っている。だから、これからもしまた同様な課題があったら、難しいことにチャレンジしていきたい。

そして私の反省すべき点は、自分と仲間との関わりだと思う。同じゼミに入ったからといって、みんながみんな同じように頑張るわけではない。課題に対する取り組み方も違う。ゼミに対する意識も違う。私はゼミは頑張りたいと思っているし、課題にも真剣に取り組んできた。しかし、中にはそうでない人もいて、わたしはそんな人に対して、正直良い気分はしなかった。グループやペアでやる課題ですらちゃんとやってなかったりすると、周りに迷惑かけるくらいだったらやめたいものにも思ったこともあった。私は、ゼミに対して真剣に取り組んでいく人たちと一緒に頑張っていきたいし、やる気がないならやらないほうがましだとも思った。けれど、それじゃダメなのかなと思うようになってきた。せっかく菅原ゼミに入った仲間なのだから、もっとみんなが気持ちを盛り立てて一緒に頑張っていけたらいいなと思う。やっぱり個人個人での自覚がもっと必要だとは思いますが、誰かが挫折しそうになった時には、自分には関係ないと思わずに、一緒に頑張っていこうと言える自分になりたい。

そして、新年度の抱負。まずは進級試験に受かることが一番である。受からなかったら新年度の抱負なんて言ってる場合ではないし、受かったことを前提に考えてみようと思う。これからは先生がアメリカに行ってしまう。そうすると、みんなで集まる機会はなかなかなくなると思う。先生と一緒にゼミをするのも、アメリカ合宿の時だけになる。しかし、だからといって気を抜かずにやっていきたい。もし課題を出されたら今まで以上に良い状態で提出したいし、楽なほうに逃げたくはない。そして、これからは少しずつ読書をしていこうと思う。三重野先生がおっしゃっていたように、たくさん本を読んで自分の知識を増やしていきたい。自分自身、経済に関する知識がまったくないことに改めて気が付いてしまった。なので、自分には関係のないことだなんて考えは捨てて、少しずつ勉強もしていこうと思う。二年後、社会に出て恥ずかしくないように、この菅原ゼミで自分を鍛えていきたい。

ゼミを振り返って

2年 山下 由佳

菅原ゼミナール(以下、菅原ゼミ)の一員となって、もう半年が経とうとしている。私は、この半年間で多くの経験を積み、大学に入って初めて充実した時間を過ごすことができたと感じている。

菅原ゼミに入ってから、私自身初体験をたくさんした。パソコン購入、プレゼン、研修旅行などで、どれもプラスになることばかりである。また、生活において変化の多い半年でもあった。

私にとっての大きな変化はパソコンだった。セブンパワーズのひとつである『IT力の強化』である。「菅原ゼミに入らなければ、パソコンさえ買っていなかったに違いない」。このゼミに入った人間は皆、声を揃えて言うかもしれないが、私もそのうちの一人である。だが、買うチャンスがなかったパソコンは、今ではなくてはならないアイテムとなった。今まで手書きで提出していたレポートは、パソコンで打って提出するし、情報を得るのに苦労していたのが、インターネットを活用すればすぐに情報を入手することができる。また、プレゼンで用いるパワーポイントは、先輩に教わりながら見よう見まねで作成した。回数を重ねるごとに、プレゼンを聞いている人にとってわかりやすいパワーポイントを作りたい、と思うようになり、時間をかけて作るようになった。たとえ、その出来がよくなかったとしても、次へとつながるステップだと思って、先生や先輩方のご指摘をちゃんと受け入れ、失敗を恐れぬことを常に意識するようになった。

プレゼンにおいては、毎回緊張の連続だった。中学時代、学級委員としてクラス全員の前で発言をしたり、高校時代、全校生徒の前で歌を歌ったりと、何度も緊張の場面に立っただけのもの、ゼミでの緊張感はどこか独特で、声が震えてしまう。まだ自信がないのか、しっかり前を見て、聞いている人に伝えよう、という姿勢ができていない。これは、今後の課題であり、その不十分さを理解している分、悪い点を改善し、少しずつでいいから今までとは違う新しい自分を、自分の力で生み出し

ていきたい。他人任せになりがちな自分だけに。だが、そのためにはまだまだ私は学ぶことが多いようである。先輩方のプレゼンを聞いていて、「失敗を恐れては、いつまでたっても前に進めないのだから、思い切り発言して、疑問に思ったことは質問しなさい」と言われているようだった。ゼミで学ぶことは今後もどんどん増えるだろう。その一つ一つを無駄にすることのないよう大切に、自分を成長させていきたい。

私自身、最も反省すべき点は、係り(FAS)の仕事を全くしなかったことである。先輩が仕事を教えてくれるだろうと、受身になっていたが、本来ならば、自発的に教わるべきであった。しっかり行動できていれば、積極的にボランティア活動へ参加できていたと思う。自分のやるべきこととは何なのか再確認し、新年度のゼミ活動では、自ら進んで動くよう心がけていく。

新年度の抱負は次の3つである。

パソコンの活用 (IT力の強化)

まだパソコンは使い始めの第一段階なので、今よりもっと活用上手になりたいと思う。4月から先生がシアトルに行くためゼミはすべてウェブ上で行われる。IT力の強化は、避けて通れない必要不可欠な要素なのだ。パソコンに慣れるためにも毎日触れるように意識しながら生活したい。

9月の海外研修 (英語力の強化)

言葉の壁に直面することで、今まで周りの人間にどれだけ甘えて生きてきたかが明らかになると同時に、日本を飛び出すことで、「今しかできないことをする最適の機会だ」と思っている。英語力アップを目指し、チャンスを逃さぬようにしたい。

係りの仕事は責任を持って取り組む

4月から新たに国際ボランティア活動をすることになっている。係りである以上、責任を持って取り組まなければならない。係りであったにもかかわらず、今までFASへの意識があまりにも低かったので、新年度からは私が中心となってやってやるんだ、という強い意志を持って、ヒューマンネットワーク力の強化に努めたい。

最後に、「真似て、学んで、超えていく」。これは私の好きな言葉である。99%の努力と、唸るほど頭をたれる稲穂かな」の精神を心に刻んで、ゼミ活動をしていきたい。

2003年 2月 28日 (金)

常歩無限

菅原 秀幸

4年生、3年生、2年生の皆さんが、それぞれの立場から、これまでのゼミにおける活動を振り返って、自分を見つめなおし、次への更なる飛躍を誓われていることを大変嬉しく思います。ゼミナールでの活動を通して、皆さんが苦闘しながらも成長していく姿は実に素晴らしく、私にも多くのエネルギーを与えてくれます。人生において、これでいいということはなく、どこまでも、まだ足りない、まだ足りない」と努力していくことが大切だと思います。小さな一歩でも、必ず大きな飛躍につながると思います。いつも、いつまでも応援しています。